

物質主義者は幸福か

—2019年における日本版「世界価値観調査」から探る幸福のメカニズム—

行田 綾花
HS30-0134F

目次

1. はじめに
2. 研究結果
3. 結論

1 はじめに

本研究の目的は、日本における物質主義者の価値体系が、幸福感にどのような影響を与えるのかを探ることだ。物質主義者とは、生存への安心感が低い人々のことだ。例えば、強力な指導者の支持や仲間内強い結束、集団規範への厳格な服従、よそ者の排除といった権威主義的反射行動をとる傾向にある。権威主義的反射行動とは、物資が不足している環境下で生き残るために、強力なリーダーに従って仲間うちの結束を固め、一致団結してよそ者に備えたり、排除したりする傾向のことである。（Inglehart 2018=2019）。つまり、権威主義的反射行動をとる傾向の高い人々のことを物質主義者という。

本研究で調査したことは、まず、物質主義者と脱物質主義者による幸福感の違いがあるのか、次に、日本人の物質主義と幸福感の関係における世代差の影響があるのかということだ。その次に、男女差の影響はあるのかについてみていった。最後に、物質主義者の幸福度が高い理由として、政治経済状況に対する現状肯定が作用しているのかについてみた。

本研究の方法としては、3つ以上の変数を扱うのに優れた順序ロジスティック回帰分析を採用した。使用データは、「世界価値観調査」の一環として日本において実施された「国民の意識

に関する国際比較調査」の集計結果である。日本の調査時時期は2019年で、調査対象は18歳以上の男女2400人である。調査項目には幸福度を4段階で尋ねた項目、年齢、性別を訪ねた項目があった。その他、政治経済状況に対してどれくらい現在肯定しているかを1~10の数字で答えるように尋ねた項目が含まれており、これら4つを変数として用いた。

2 研究結果

第一に、基準変数である物質主義と、脱物質主義との間には有意な差があり、全体的には物質主義が幸福にポジティブな影響をもたらすことがわかった。この時のp値は4%で、5%水準を満たしており、統計的に優位な結果といえる。

第二に、18~27歳をベースカテゴリとし、物質主義が幸福度に及ぼす効果を検証した結果、基準変数である物質主義と、脱物質主義の間には、世代効果の影響を考慮してもどの世代においても有意な差はなかった。

第三に、男性を基準変数とし、性差を考慮した上で物質主義が幸福度に及ぼす効果を検証した結果、男性と女性の間には幸福度に有意な差があった。この時のp値は0.001%以下で、1%水準を満たしていた。

第四に、日本において性別の違いは物質主義者か脱物質主義者にかかわらず、幸福度に影響を与え、特に女性という変数は幸福度にネガティブな影響をもたらしていた。

3 結論

第一に、全体的に物質主義が幸福にポジティブな影響をもたらした。第二に、世代効果を考慮しても、物質主義が幸福にポジティブな影響をもたらす効果の方が強かった。第三に、日本において性別の違いは物質主義者か脱物質主義者にかかわらず、幸福度に影響を与え、特に女性という変数は幸福度にネガティブな影響をもたらした。第四に、政治経済状況に対する現状肯定の度合いの高さは、物質主義が幸福にポジティブな影響をもたらすことがわかった。

ただし、日本において物質主義が幸福感にポジティブな影響を与えるという因果関係に関する研究はさらに必要である。分析をするうえで考慮する必要のある要素は他にも沢山ある。今後も、様々な要素を用いて、多様な観点から仮説を構築し、検証していくことが依然として課題として残されている。

4 参考・引用文献

石崎昇子, 2015, 『近現代日本の家族形成と出生児数 子供の数を決めてきたものは何か』, 明石書店.

井上たか子, 2010, 「第7章 パックス」, 三浦信孝・西山教行, 2010, 『現代フランス社会を知るための62章』 明石書店.

井上輝子, 2011, 『新・女性学への招待』, 有斐閣選書.

打越文弥, 2018, 「夫婦世帯収入の変化からみる階層結合の帰結——夫婦の学歴組み合わせと妻の就労に着目して——」 『家族社会学研究』 30(1) : 18-30.

金井雅之, 小林盾, 渡邊大輔, 2014, 『社会調査の応用—量的調査編: 社会調査士 E・G 科目

対応』 弘文堂.

現代位相研究所編, 2011, 『本当にわかる社会学』 日本実業出版社.

男女共同参画の総合情報誌内閣府, 2019, 『共同参画』, 119 巻, 内閣府.

(<https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2018/201901/pdf/201901.pdf>)

土井隆義, 2019, 『「宿命」を生きる若者たち格差と幸福をつなぐもの』 岩波書店.

中井遼, 2020, 「欧州におけるポスト難民危機期の排外意識分析 —右翼政党支持・反移民態度・反欧州統合—」 『北九州市立大学国際論集』 18 巻, 43-72.

永吉希久子, 2016, 「排外意識に対する社会経済的地位の効果」, 筒井淳也・神林博史・長松奈美江・渡邊大輔・藤原翔, 2016, 『計量社会学入門』 世界思想社, 208-217.

西尾治子, 2010, 「第42章 パリテ」, 三浦信孝・西山教行, 2010, 『現代フランス社会を知るための62章』 明石書店.

畑山敏夫, 2018, 「マリーヌ・ルペンとフランスの右翼ポピュリズム: 変容するフランス政治と「国民戦線(FN)」について考える(4)」, 2018, 『佐賀大学経済論集』, 51(2), 佐賀大学経済学会: 33-71.

-----, 2019, 「マリーヌ・ルペンとフランスの右翼ポピュリズム: 変容するフランス政治と「国民戦線(FN)」について考える(6)」 『佐賀大学経済論集』, 51(4), 佐賀大学経済学会: 215-246.

林瑞枝, 2010, 「第4章 人種差別」, 三浦信孝・西山教行, 2010, 『現代フランス社会

- を知るための 62 章』 明石書店.
- 古市憲寿, 2012, 『絶望の国の幸福な若者たち』 講談社.
- 森下伸也, 2013, 『社会学がわかる事典』 日本実業出版社.
- 山下亜紀子, 2020, 「第 5 章 なぜ私たちは母親の頑張りを求めるのか」, 三角一人, 高野和良, 『ジレンマの社会学』 ミネルヴァ書房: 69 - 84.
- 渡邊勉, 2018, 「職業経歴の不平等」 『特集 2015 年SSM が捉える階層構造の変容』 33(2): 218-233
- Abercrombie, N., Hill, S., and Turner, B. S., 1984, *The Penguin Dictionary of Sociology: Fifth Edition*, Viking. (丸山哲央 監訳・編集, 2005, 『新版 新しい世紀の社会学中辞典』 ミネルヴァ書房.)
- Andersen, G. E., 1999, *Social Foundations of Postindustrial Economies*, Oxford University Press. (渡辺正雄, 渡辺景子訳, 2013, 『ポスト工業経済の社会的基礎 市場・福祉・家族の政治経済学』, 桜井書店.)
- Brut Japan, 2019, 『性差別と戦う 5 人の女性』, Twitter.
(2020 年 7 月 26 日 取得 ,
<https://twitter.com/brutjapan/status/1195453922556682241?s=20>).
- Christakis, N. A., Fowler, J. H., 2009, *Connected: The Surprising Power of Our Social Networks and How They Shape Our Lives (English Edition)*, Little, Brown Spark. (ニコラス.A. クリスタキス, ジェイムズ.H. ファウラー, 鬼沢忍訳 2012, 『つながり—社会的ネットワークの驚くべき力—』 講談社.)
- Haerpfer, C., Inglehart, R., Moreno, A., Welzel, C., Kizilova, K., Diez-Medrano J., M. Lagos, P. Norris, E. Ponarin & B. Puranen et al. (eds.). 2020. World Values Survey: Round Seven - Country-Pooled Datafile. Madrid, Spain & Vienna, Austria: JD Systems Institute & WWSA Secretariat. doi.org/10.14281/18241.1.
- Hochschild, A. R., 2016, *Strangers in Their Own Land: Anger and Mourning on the American Right*, The New Press. (布施由紀子訳 2018, 『壁の向こうの住人たち アメリカの右派を覆う怒りと嘆き』 岩波書店.)
- Inglehart, R , 2018, *Cultural Evolution: People's Motivations are Changing, and Reshaping the World*, Cambridge University Press. (山崎聖子訳, 2019, 『文化的進化論 人びとの価値観と行動が世界をつくりかえる』 勁草書房).
- Inglehart, R, 1990, *Culture Shift in Advanced Industrial Society*, Princeton Univ Press. (村山皓, 富沢克, 武重雅文訳, 1993, 『カルチャーシフトと政治変動』 東洋経済新報社.)
- Schlenker B. R., Chambers, J. R., and Le, B. M., 2014, "Conservatives are happier than liberals, but why? —Political ideology, personality, and life satisfaction," Krizan, K., *Journal of Research in Personality — Political ideology, personality, and life satisfaction*, 46(2), 2012: Elsevier, 127 - 146.